あらこうつうしん
新高通信

令和５年３月２４日発行

第８０号

秋田県立新屋高等学校

「今こそ出発点」

校長　久慈　隆正

　コロナ禍で地域の行事への参加がかなわない状況でしたが、今年度の新高祭は３年生の家族限定でしたが、公開をすることができました。その後も、感染対策の徹底を行いながら、修学旅行なども行うことができました。また同窓会とＰＴＡ等の協力により、学校食堂を期間限定でしたが、復活することができました。

　今回は、２学期始業式で話したことについて、紹介したいと思います。京都大徳寺大仙院の小関宗園和尚の「今こそ出発点」について話しました。

　「本気で挑戦」と書道部に書いてもらい各教室に掲示してもらっていますが、正式には「本気で挑戦し続ける新屋高校」を今年度の本校の重点にしております。

「今こそ出発点」という詩の中に、「人生とは毎日が訓練である、わたくし自信の訓練の場である、失敗もできる訓練の場である、生きているを喜ぶ訓練の場である」とあります。何も挑戦せず過ごしていると、大きな失敗をせずに過ごすことができます。しかし、大きな喜びもなく終わってしまうかもしれません。それでいいのだろうかという思いがこの詩の中にはあります。失敗してもいいから挑戦して欲しい。どうせ挑戦するなら本気で挑戦して欲しい。そして、一度の失敗で諦めて欲しくない、継続は力なりである。そういう思いで、「本気で挑戦し続ける新屋高校」としました。これは、皆さん生徒だけでなく、我々教職員も同じです。皆さんは、あの時あれをやっておけばよかったという後悔をしたことがあると思います。後悔はだれでも経験していると思いますし、この先も何度も経験するかもしれません。人間の心というのは弱いものです。辛いことや嫌なことがあると、逃げ出したくなったりくじけそうになることが多いものです。後悔を少しでも少なくするためには､「わたくし自身の将来は　今この瞬間　ここにある　今ここで頑張らずにいつ頑張る」という言葉を胸に、やるべきことをやらない自分の心の弱さに負けずに「本気で挑戦し続ける」ことができるかだと思います。私の大切にしている言葉を紹介しましたが、皆さんそれぞれが大事にしている言葉があると思います。是非それらを胸に、今後も勉強や部活動などに本気で挑戦してください。

以上のことを話しました。

　今年も様々な御支援を頂きありがとうございました。今後も地域の皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

令和４年度 第３７回卒業証書授与式

総務部　高橋　健

　令和５年３月１日（水）に「令和４年度 第３７回卒業証書授与式」を挙行いたしました。ここ数年はコロナ対策のため斉唱を控えるなど、さまざまな制約をうけての式でしたが、今年度は「校歌斉唱」を実施し、卒業生は入退場や登壇時にはマスクをはずすなど、本来の式の形に近づけての実施となりました。

　卒業生１６７名を代表して卒業証書をもらい受けた鈴木瑛太さん、３年間の思いを込めて答辞を述べた菅原るかさんたち代表生徒をはじめ、参加された卒業生全員は立派に式に臨んでいました。

　今年の卒業生は、入学時からコロナの影響により、さまざまな活動が制限されてきましたが、この卒業証書授与式は卒業生たちにとって高校生活最後のよい思い出になったことと思います。

今年度の進路決定の概要（３月１３日現在）　　進路指導主事　　石塚　道康

【就職状況】　求人数は昨年よりは回復傾向にある。コロナ禍の影響もあってか県内の就職を希望する生徒は年々増えてきており、就職希望者も学年全体で昨年よりも１０名ほど増加した。内定者は２８名（全員県内）である。１回目の選考で内定をもらっていない者も、企業見学、集団面接会などに参加して、内定をいただくべく採用試験に２度目、３度目に挑戦し、結果を出した。
【進学状況】　大学入学共通テストの出願者が４９名であった。近年は総合型選抜、学校推薦型入試で挑戦する生徒が増え、下の表にあるような合格数になっている。進学志望１３７名の９４．８％が進学先を決定している。

進路状況	合計	国公大	私　大	短　大	専門校	進学未定	民間	公務員	就職未定	全く未定
１年生　９月志望	175	67	18	3	39	17	6	8	8	9
２年生　９月志望	165	36	38	11	37	18	14	9	2	0
３年生　９月志望	167	33	41	11	51	0	22	9	0	0
３年生　決定状況	**１６７**	**１５**	**４４**	**１４**	**５２**	**１２**	**２４**	**５**	**０**	**１**
（昨年同期）	**(170)**	**(7)**	**(46)**	**(24)**	**(63)**	**(6)**	**(16)**	**(7)**	**(0)**	**(1)**

「百三段」の地で　　徒指導主事　三浦　貴子

新屋高校の校歌に「ももさだに～ももさだに～♪」という、私には意味不明の歌詞があった。その歌詞の意味を知ったのは、生徒とともに日吉神社で新屋の由来を学んだ時である。
かつて新屋地区は「百三段（ももさだ）」と呼ばれていた。秋田、酒田間の「羽州浜街道」の宿場町で、雄物川水運の川湊であり、豊富な湧水があるなどの諸条件が重なり発展してきた町である。今もない風情のある町並みを残している。
新屋高校は、この歴史ある地区に開校して来年で４０年。授業で新屋の町中散策、日吉神社で歴史を学び、新屋鹿嶋祭り・大川散歩道雪まつりに参加参加させていただいた。また、地域の保育園にボランテイアや文化祭で仮装して訪問した。生徒は新屋地区の皆さんと関わりを持つことで成長していった。しかし、新型コロナ拡大により各種の行事や縮小、中止になった。地域との関わりが希薄になった中で、自分たちを育ててくれた新屋になにかできないかと「ももさだ海岸清掃ボランテイア」を生徒会が主催した。参加生徒は１２０名。新屋の地で育てて頂いた成長は、コロナに負けずに、今なお成長している。
今年度制服もリニューアルし、新たな歴史を刻もうとしている。「ももさだ」地で今後も、地域に守られ成長する生徒がここにいる。

進路選択に向けて　　１学年主任　髙橋　典子

１年生は卒業後の進路を考えるために、視野を広げる取り組みをしています。今まで興味がなかった分野の情報も積極的に取り入れています。その１つとして、毎年１年生全員で地元の大学を訪問しています。最近はコロナの影響で受け入れを中止していた大学もありましたが、今年は受け入れてくれる大学が増え、各自５つの大学の中から２大学を選んで訪問しました。バス遠足のようでもあり、楽しんでいたようです。県外も含め、対面でオープンキャンパスを開催する学校も増えてきたので、実際に何を学べるのか確かめてほしいと思います。また、働くことについてのガイダンスも行いました。地元の民間企業５社と、県庁、自衛隊の方、また看護医療系や保育系希望者のために看護学校や短期大学の先生に来ていただきました。生徒たちはこの中から各自３社を選び、説明を聞きました。主に地元企業の魅力を伝える内容だったこともあり、「地元で働くからこその良さがあることがわかった。」といった感想がよせられました。進路についてはまだまだ具体的なイメージが持てない生徒も多く、できるだけ早く目標が設定できるようこれからも支援していきたいと思います。

のぼれ！イシダ坂！！（新高から地域へ）　　生徒会担当　阿部　大輔

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、コロナ流行前に実施されていたお祭りへの参加や幼稚園訪問、特別支援学校との交流など、難しい状況が続いており、地域との交流を期待していた生徒会や地域との交流を通した教育効果を期待する学校にとっては、もどかしい状況が続いていた。その状況を打破すべく、生徒が地域に赴き、交流を促進できないかと模索し、生徒会執行部主催「SDGsフェスタ」や文化部体験教室「のぼれ！イシダ坂！！」を開催した。
生徒自らイベントを企画・運営する経験はあまり無く、企画設計や広報、準備、運営など苦労することも多かったが、どのイベントにも３０名程度の参加があり、大盛況であった。参加者から頂いた「また参加したい！」「最高のクリスマスイヴになった！」などのコメントは運営した生徒にとって大きな励みになった。
イベント開催等、生徒自らが地域に飛び出し、安定した地域交流に繋げられる手応えを得られたことは大きな収穫である。現生徒会長は、「地域と地域の方と関わることができるイベントを生徒会で企画していきたい」と意欲を示しており、非常に心強い。今後も、地域と共に育ち、地域の発展に貢献できるよう「本気で挑戦」していきたい！